

建築研究所 ニュース



平成22年9月8日

中国四川大地震の復興支援「耐震建築人材育成プロジェクト」による「中国耐震建築研修」の第2期研修生20名が帰国

建築研究所・国際地震工学センターにおいて実施された第2期「中国耐震建築研修」の研修修了生20名が、約2ヶ月間の研修を終え、8月4日に帰国いたしました。

本研修は、一昨年5月に発生した中国四川大地震に対する日本政府の復興支援のため、国際協力機構（JICA）が実施する「耐震建築人材育成プロジェクト」の一環として、昨年度から3カ年の計画で実施されています。

国際地震工学センターでは、これまで96ヶ国から1,481名を受け入れて国際地震工学研修を実施してきた実績を活かし、中国全土からの20名の構造技術者等を対象に、2010年6月8日より8月3日までのスケジュールで「中国耐震建築研修」を実施しました。

研修生は全員熱心に講義・見学に参加し、最終発表会では日中の耐震設計法の比較や、日本の技術を活用した中国の建築物の耐震化について、活発な意見交換が行われました。帰国後は、特に中国の小中学校の耐震診断・補強に日本の技術と経験を生かしたいという意見が多くありました。

本研修によって、耐震建築技術に関する中国の構造技術者の理解が深まるとともに、中国国内、特に耐震対策が緊要と考えられる地方の住宅、学校、病院等の建築物についての耐震技術が今後益々普及することが期待されます。



写真1 第2期の中国研修員



写真2 第2期研修の閉講式

<参考1：研修の概要>

研修期間：平成22年6月8日（火）～8月3日（火）

場所：(独) 建築研究所

参加者：中国構造技術者20名

主な講義内容

耐震設計、耐震診断および補強、免震・制振構造、超高層建築など

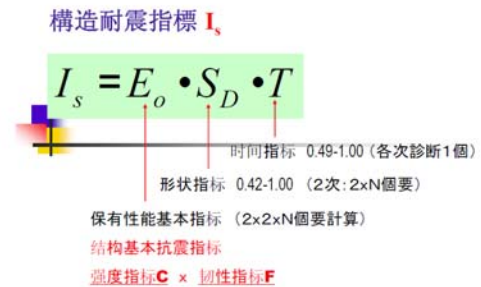
<参考2：研修生が作成した日本と中国の比較表と日本の耐震診断手法の紹介>

2.2.5、中日设计规范的对比

项目	中国规范	日本规范						
地震烈度	分为 I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX、X、XI、XII 十二度，其中：I-IV 为体感地震，V-X 可用地震加速度来表征，XI、XII 度比较罕见，不具工程学上的意义。	分为 IV、V 弱、V 强、VI 弱、VI 强、VII 六度，一般由感觉度来衡量，也可用地震加速度来表征。						
	中日地震烈度对应表 (gal)							
	中国	I-IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
	日本	---	IV	V 弱	V 强	VI 弱	VI 强	VII
	加速度	体感	31	63	125	250	500	1000
设计原则	小震不坏，中震可修，大震不倒	小震不坏 (加速度 80gal, 0.2g), 大震不倒 (加速度 400gal, 1.0g)						
	中国规范中水准地震的地震加速度最大值 (gal) 及水平影响系数最大值 (g)							
	烈度	7 度	7.5 度	8 度	8.5 度	9 度		
小震	35 (0.08)	55(0.12)	70(0.16)	110(0.24)	140(0.32)			
中震	10 (0.23)	150(0.32)	200(0.45)	300(0.67)	400(0.9)			
大震	220(0.5)	300(0.72)	400(0.90)	530(1.20)	620(1.40)			
	日本规范的小震加速度相当于中国规范 8 度及 8.5 度区的小震加速度，大震加速度相当于中国规范的 8 度加速度。							



I_{so} 考虑了地域 (地震烈度)、场地 (场地类别)、使用 (建筑功能) 要求。



(内容の問合せ先)

独立行政法人 建築研究所
 所属 国際地震工学センター
 管理室長
 氏名 黒澤 肇
 電話 029-879-0678(直通)
 E-mail kurosawa@kenken.go.jp

